

氏名	
----	--

点数		点/100点
----	--	--------

各論演習 32-1

問1)

P社（発行済株式総数5,000株）はS社（発行済株式総数1,300株）と×1年4月1日に株式交換を行い完全子会社とした。P社は、S社株式1,300株と交換に交付するP社株式1,000株のうち、200株はP社の所有する自己株式（1株あたり帳簿価額180円）を移転して交付し、800株は新株を発行して交付した。P社株式の時価は1株あたり200円である。この場合における、パーチェス法（P社を取得企業とする）によるP社及びS社の仕訳を示しなさい。なお、P社の増加する払込資本のうち2分の1ずつを資本金と資本準備金とする。

また、仕訳すべきものが無い場合は、仕訳なしと記入すること。

解1)

【P社の仕訳】 <span style="float: right;">(単位：円)</span>			
借方		貸方	

【S社の仕訳】 <span style="float: right;">(単位：円)</span>			
借方		貸方	

氏名

点数 点/100点

各論演習 32-2

問1)

S1社とS2社は、P社を新設し完全親会社とする株式移転を行い、両社ともにP社の完全子会社となった。この場合における、パーチェス法（S1社を取得企業とする）による（1）P社の仕訳を示しなさい。なお、株式移転の各条件は、次のとおりであり、P社の増加する株主資本のうち2分の1ずつを資本金と資本準備金とする。また、この株式交換により連結財務諸表に計上される（2）のれんの金額を求めなさい。なお、両社ともに資産・負債の帳簿価額と時価は一致していた。

	S1社	S2社
発行済株式総数	1,500株	1,600株
両社の株式の時価	@200.0円	@112.5円
適正な帳簿価額による株主資本の額	230,000円	153,000円
1株につき交付するP社株式	1株につき1株	1株につき0.6株

解1)

(1) P社の仕訳 (単位:円)

S1社株式 (取得企業)

借方		貸方	

S2社株式 (非取得企業)

借方		貸方	

(2) のれんの金額

円